



2021年11月29日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 A C C E S S
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 執 行 役 員 大 石 清 恭
(コ ー ド 番 号 4 8 1 3 東 証 第 一 部)
問 合 せ 先 執 行 役 員 コ ー ポ レ ー ト 本 部 長 森 田 善 之
(T E L . 0 3 - 6 8 5 3 - 9 0 8 8)

2022年1月期通期連結業績予想の修正及び個別業績予想に関するお知らせ

当社は、2021年11月29日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、2021年3月15日に公表しました2022年1月期（2021年2月1日～2022年1月31日）通期連結業績予想を以下の通り修正することとしましたので、お知らせいたします。また、当社は個別業績予想を開示しておりませんが、個別決算において前事業年度の実績値と比較して差異が生じる見込みとなったことから、併せてお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想数値の修正

(2021年2月1日～2022年1月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	11,900	100	70	10	0.26
今回発表予想 (B)	9,000	△3,400	△2,900	△3,050	△77.98
増減額 (B-A)	△2,900	△3,500	△2,970	△3,060	—
増減率 (%)	△24.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2021年1月期)	7,516	△2,641	△2,337	△2,537	△65.16

2. 個別業績予想数値について

(2021年2月1日～2022年1月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前事業年度実績 (A)	4,640	△542	△680	△17.48
今回発表予想 (B)	5,350	200	200	5.11
増減額 (B-A)	709	742	880	—
増減率 (%)	15.3	—	—	—

3. 修正の理由

【連結業績予想数値】

当初の予想数値に対し、特にネットワーク事業の主体である米国子会社の IP Infusion Inc. における売上高及び営業利益が大幅に減少することが見込まれ、これに伴い当社の連結業績につきましても売上高及び各段階利益が当初の予想数値を下回る見込みとなりました。

なお、各セグメントの事業状況は下記の通りです。

【国内事業】

新型コロナウイルス感染症の流行による事業活動への影響は顧客側のサプライチェーン等に係る潜在的なリスクを除き縮小傾向にあり、各分野ともに前期実績より増収傾向にあります。個別の状況としましては、IoT 分野においては産業用ドローンやインフラ関連の案件が増加するほか、Web プラットフォーム分野においては当社ブラウザ製品を搭載した TV や車載機器の出荷台数が好調に推移しております。また、電子出版分野においては、新規サービスの案件獲得が進んでおりますが、既存案件維持及び新規案件開拓のための投資が増加したことや売上構成が当初想定と異なる見込みとなったことから、計画と比べ収益性が低下する見込みです。なお、国内事業セグメント全体では、前期比で増収見込みとなります。

【海外事業】

当連結会計年度におきましては、総じて車載インフォテインメント向け分野の本格的な市場立ち上がりには時間を要しているほか、TV 向けブラウザ・コンテンツ配信分野においても売上獲得が遅れるなど、当社が想定した事業成長に至らず、売上高・セグメント利益ともに当初の計画を下回る見込みです。

【ネットワーク事業】

当初の予想数値策定時点におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が当連結会計年度においても一定期間にわたり継続するも 2021 年には回復基調に向かうとの仮定に基づき、ネットワーク事業において前連結会計年度から継続して取り組んでおりますホワイトボックスソリューション「OcNOS」のライセンス販売に関する大型案件を当連結会計年度に獲得し、年度後半から複数案件での商用出荷の実現による売上成長を見込んでおりました。

しかしながら、各通信キャリアにおいては 2020 年以降のネットワーク通信量の急激な増大を受け、短期的にネットワーク設備網の拡充対応を行うことに重点が置かれ、ホワイトボックスの本格的な商用導入による設備投資・運用コストの削減や運用の自由度の実現に対する優先度の低下が見られました。この結果、想定と比して、OcNOS の各案件の試験評価期間・契約交渉期間が総じて長期化し、初期導入規模・受注額が小さくなり、ネットワーク事業の売上高が計画を下回る見込みとなりました。

かかる状況において、販売チャネルの拡充や顧客サポート体制の強化を通じて売上拡大を図っておりますが、当連結会計年度においては、その効果は限定的なものに留まりました。そのため、セグメント全体の売上高は前期実績と比べ 30%程度の増加が見込まれるものの当初計画を 20 億円程度下回り、セグメント利益につきましてもソフトウェアに係る減価償却費の増加や営業・開発体制の拡充等の要因により前期実績・当初計画をともに下回る見込みです。

当セグメントの当連結会計年度の業績見込みは上記の通りとなりますが、事業活動を通じ当社の認知度及び OcNOS の案件引き合いは着実に向上・増加しアジア、アフリカ、南米等を中心に通信キャリアからの受注・複数年契約の獲得に至っております。現時点までに、OcNOS の受注件数及び受注総額（複数年契約も含む）は前年同期比でそれぞれ 2 倍程度に増加する等、当社としましてはホワイトボックス市場が確実に立ち上がりつつあるものと認識しており、引き続き当社の事業成長の柱として事業拡大に取り組んでまいります。

【個別業績予想数値】

前述の国内事業セグメントの事業状況を踏まえ、売上高が前事業年度の実績を上回る見込みであることに加え、2021年8月30日付「投資事業組合運用益（営業外収益）の計上及び2022年1月期第2四半期（累計）連結業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、投資事業組合の運用成績が好調に推移していることから、経常利益、当期純利益についてもそれぞれ前事業年度の実績を上回る見込みであります。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであり、今後様々な要因によって実際の業績は予想数値と異なる場合があります。

以 上